

第2次 滝川市環境基本計画・地域行動計画

年次報告書(案)

(令和7年度版)

滝川市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）では令和7年度を目標年度とし、平成28年3月に策定し滝川市がどのような取組を行っているか、また、実際にどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することを取り決めています。この報告書は、その一環として、前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。なお、中間年にあたる令和2年3月に計画の見直しをしています。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げ、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む
『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく、資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では令和7年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
エコドライブによるCO ₂ 削減	172,100 kg/年	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	80%以上	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 令和7年度における数値目標の達成状況について

市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（令和7年度時点）	500 g / 人・日
実績値（令和7年度）	530 g / 人・日

リサイクル率

目標値（令和7年度時点）	25.0%
実績値（令和7年度）	17.7%

令和7年度の評価



目標年度となる令和7年度については、目標達成には至りませんでした。昨年度よりも、ゴミの排出量は減少しました。人口減少に伴い、全体的にごみの量は減少傾向にあることや、容器の軽量化の影響もあることから、収集量は年々減少傾向にあります。その状況の中で、リサイクル率については横ばいであることから、「ごみ分別出前講座」を推進し、より一層の資源分別を促していきます。

区分		単位	6年度	7年度
収集人口 ①		人	36,070	35,353
収集世帯		世帯	20,468	20,294
家庭系	生ごみ	t	1,194	1,119
	燃やせるごみ	t	4,805	4,647
	燃やせないごみ	t	398	382
	粗大ごみ	t	804	692
	資源ごみ	t	559	523
	計 ②	t	7,760	7,363
事業系	生ごみ	t	1,214	1,039
	燃やせるごみ	t	2,028	2,038
	燃やせないごみ	t	45	34
	粗大ごみ	t	90	118
	資源ごみ	t	63	62
	計 ③	t	3,440	3,291
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	462	462
	生ごみより回収 ※H29年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	228	210
	資源ごみより回収	t	535	504
	計 ④	t	1,225	1,176
資源回収	拠点回収	t	5	4
	集団資源回収	t	933	859
	計 ⑤	t	938	863
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	12,138	11,517
埋立処分量		t	762	674
リサイクル率 (④+⑤) / ⑥		%	17.8	17.7
市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系※1）		g	547	530

※1 資源ごみ回収分を除く

2 令和7年度における主な取組について

- (1) 市民運動エコライフたきかわ(＝エコたき)の推進
 滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」を推進しています。

令和7年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「コ(ゴミを減らして快適ライフ)」を重点目標とし、環境市民委員会で審議いただきました。

また、環境に興味を持つ生徒が環境学習リーダーAdvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。



- (2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付しました。

実施団体数 延べ274団体(前期136団体、後期138団体)

奨励金交付額 171万円(前期87万円、後期84万円)

単位：t

		6年度	7年度
区分	紙パック	7	5
	紙類	702	647
	びん類	101	91
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	56	52
	ペットボトル	67	64
	その他	X	X
	計	933	859

※四捨五入等の関係で計は一致しない。

※区分「その他」について、物としてはビールメーカーP箱などのこと。総重量が1tを越えないため重量表記についてはXとする。

- (3) カレンダーリサイクル事業

滝川市立図書館において、カレンダーリサイクル展を実施しました。

期間中(1月4日～2月7日)にカレンダー及び手帳5,555点が引き取られ有効活用が図られました。

- (4) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみ減量推進の一環として、製品等の再利用(リユース)の円滑化を図るべく、市内で古物商を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：7店舗

- (5) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を江部乙支所で行いました。

令和7年度の回収量は約4tで、前年度より1t減となりました。

(6) たきかわクリーンデイの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境保全への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデイ」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	設定期間 4月12日～5月11日 実施期間 4月12日～6月8日	104団体 (町内会：89・事業所：4・団体：7・学校：4) ボランティア袋配布数：40リットル／2,021袋 20リットル／1,392袋	3,709人
秋	設定期間 10月1日～11月3日 実施期間 9月28日～11月9日	48団体 (町内会：42・事業所：2・団体：1・学校：3) ボランティア袋配布数：40リットル／680袋 20リットル／500袋	1,273人

(7) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は、住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。

なお、クリーンデイに参加される方にも配布しており、令和7年度は、7,125枚（40リットル／4,551枚、20リットル／2,942枚）を配布しました。

(8) 滝川市民向け「ごみ分別出前講座」の開催

ごみの分別促進を目的として、収集後のごみの行方（処理方法）や雑がみ分別について資料を用いて講座を行いました。また、雑がみ分別について収集可能なもの、不可能なものについて実際に分別を体験していただき理解を深めてもらいました。

第1回

開催日 令和7年5月23日
会場 三世代交流センター北地区分館
参加人数 27名

第2回

開催日 令和7年6月11日
会場 朝日町地区福祉ホーム
参加人数 18名

第3回

開催日 令和7年7月2日
会場 大町コミュニティセンター
参加人数 12名

第4回

開催日 令和7年7月3日
会場 泉町福祉会館
参加人数 20名



第5回

開催日 令和7年7月22日
会場 東滝川地区転作研修センター
参加人数 28名

第6回

開催日 令和7年10月31日
会場 啓南団地集会室 3号棟 117号室
参加人数 11名

第7回

開催日 令和7年11月20日
会場 まちづくりセンターみんくる
参加人数 42名



(9) 衣類交換会の開催

日時 令和7年9月20日
会場 空知自動車学校
内容 「WAIWAI フェスタ 2025」にて、衣類交換会を開催しました。滝川市が回収した衣類と、来場者にお持ちいただく衣類の交換を行い、市民のみなさんのリサイクル意識の向上を図りました。

参加人数 19名



ごみ回収のその後はどうなってるの？ そんな疑問にズバリとお答えします。
滝川市の収集されたごみの行方は！？

ごみの分別が大事なのは理解できるけれど、分別されたごみは一体どうなっているの？という市民の皆さんからのお声を受けて、右記一覧表を作成し、ホームページに掲載しています。

皆さんにご協力いただき細かく分別されたごみが、どのように処分やリサイクル等されているのかをぜひ一度ご確認ください。



滝川市公式ホームページ
「家庭系ごみの分別収集」(ページID:
1722) → 「滝川市で収集されたごみの行方について」



また、市役所くらし支援課のホームページから、開催情報の発信依頼や
情報登録ができますので、ご利用ください。

(2) 地球環境（地球全体の問題）

1 令和7年度における数値目標の達成状況について

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1 %削減

実績値（令和7年度）4,334_{k1}

※前年比 113.0%

エコドライブによるCO₂削減

目標値 172,100 kg/年削減

実績値（令和7年度）1,079,067 kg/年削減

前年比 98.6%

※原単位とは施設の延べ床面積あたり

令和7年度の評価



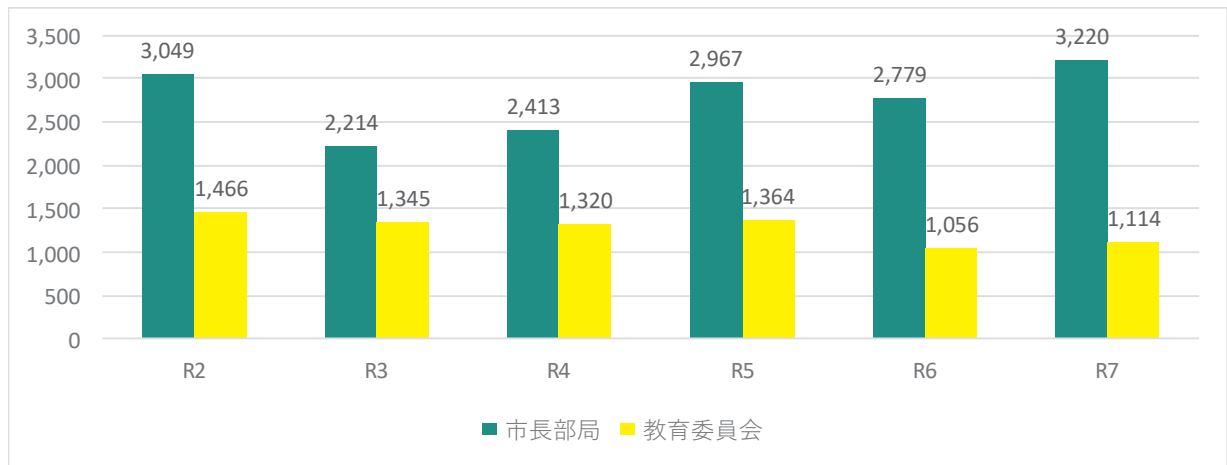
日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICE でエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者に省エネルギーやごみ削減を主としたCO₂削減活動に努めるよう周知しました。また、街路灯切替促進補助金により、町内会の街路灯のLED化が進んでいます。

今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業として環境学習やごみ分別講座を行うほか、ホームページなどを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。

(1) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で令和7年度1年間に消費したエネルギー量は、原油量に換算すると4,334キロリットルになりました。

滝川市の公共施設エネルギー消費量（1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算）



(2) エコドライブによるCO2削減

1年あたりの自動車学校卒業時講習受講者500名を年度毎の取り組み者数とし、資源エネルギー発行の「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」で示されたガソリン節約量(年間10,000km走行、平均燃費11.6km/ℓを想定)をCO₂削減量に換算し目標値を設定してます。

令和7年度空知自動車学校卒業時講習受講者642名に加え、高齢者講習時においてもエコドライブ講習を実施し2,493名が受講、計3,135名が受講しました。

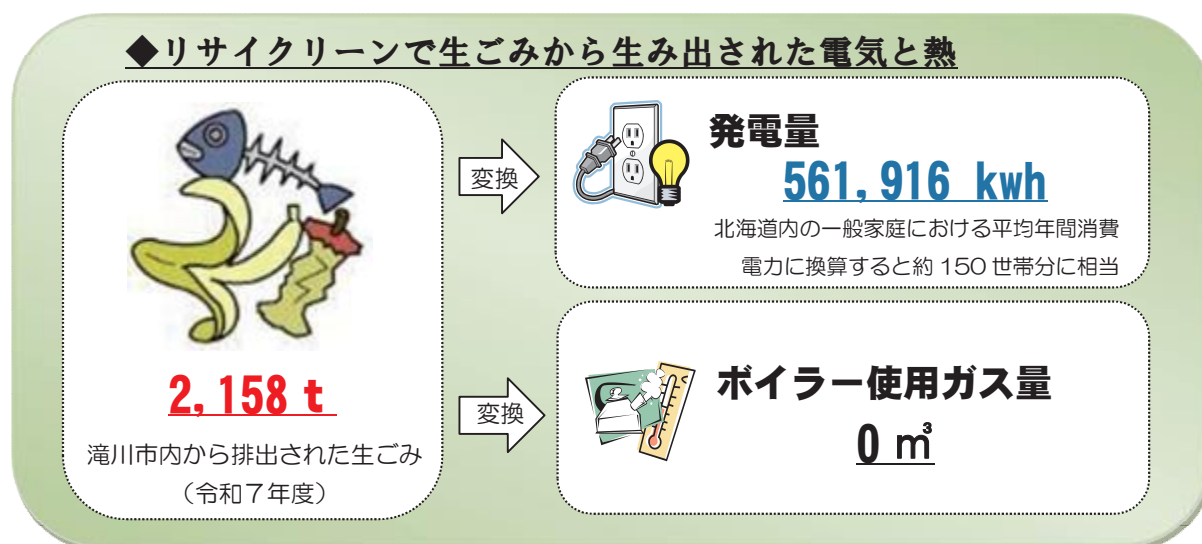
1人あたり1年間でガソリン148.28ℓ節約 原油換算132.42ℓ CO₂削減量344.2kgに3,135人を乗じ、ガソリン464,857ℓ(原油換算415,136ℓ・CO₂換算1,079,067kg)の削減となりました。

(3) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリーン(滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同運営)では、各市町で分別回収された生ごみ(一般廃棄物)からメタンガスを取り出しています。

メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電気や熱に変換され施設運営等に活用されています。



※それぞれ、施設全体の発電使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(59.0%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は、石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電気や熱に変換して利用しました。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量(t)	2,935	1,203
II メタンガス発生量(m³)	1,242,000	509,220
III メタンガス使用量(m³) →メタンガス発電等として利用	1,044,000	428,040
IV 発電量(kWh)	1,494,000	612,540

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約163世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（5市9町により組織）が設置、管理及び運営している、歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理してます。

施設では、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電し、発電した電気は施設内で使われ、余った電気は売却し有効活用しました。

	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量（t）	21,150	7,284
II 可燃ごみ焼却量（t）	20,732	7,140
III 発電量（kWh）	10,296,279	3,546,009
→売電（kWh）	→5,850,908	→2,015,036

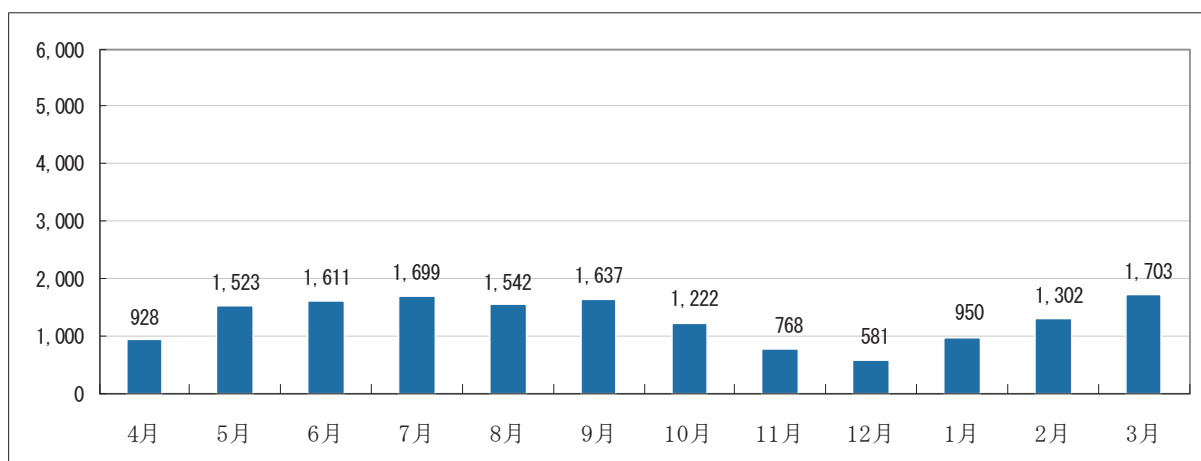
※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約946世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

（4） 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成22年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量を集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。

令和7年度 月別発電量



※発電量合計は、集計機器トラブル等により、一部の施設の数値が反映されていません。

単位：kWh

i) 滝川市役所



- ・出力：5kW
- ・角度：90°
- ・設置年月日：平成22年12月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20kW
- ・角度：50°
- ・設置年月日：平成22年12月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5kW
- ・角度：45°
- ・設置年月日：平成22年7月

iv) 滝川第三小学校



- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・設置年月日：平成27年3月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・設置年月日：平成27年4月

(5) 町内会街路灯切替促進補助金

町内会等が維持・管理する街路灯をLEDに切替促進するための補助金を支出しています。

令和7年度実績：83灯

※街路灯のLED化率95.82%（LED：5,868灯、LED以外：256灯 合計6,124灯）

(6) 市内コミュニティセンター等の照明をLEDへ切替えしました。

コミュニティセンター名	場所	実施
東滝川地区転作研修センター	ホール 調理実習室 研修室 塔屋階段	○
西地区コミュニティセンター	児童室	○
東地区コミュニティセンター	器具室 器材室 会議室	○



(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 令和7年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成28年度～令和7年度累計） 8,700人

実績値（平成28年度～令和7年度累計） 35,423人

○NPO法人まち・川づくりサポートセンター

・みんとち自然体験楽校／35名 ・環境・防災体験／4,092名

○江部乙丘陵地のファンクラブ

・フットパス・観察会参加者／145名

○たきかわ環境フォーラム

・自然環境と動物に関する取組／65名

○たきかわプロギング

・プロギング参加者／80名

農業体験授業（事業）実施校数

目標値 80%以上 実績値（令和7年度） 100%

○令和7年度の実施校18校（全18校）（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、二の坂保育所、中央保育所、第一小学校、第二小学校、第三小学校、東小学校、西小学校、江部乙小学校、明苑中学校、江陵中学校、開西中学校、國學院大學



令和7年度の評価

「たきかわエコネット」の自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施、SDGsへの取り組みなどは、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために重要なものです。

今後も、民間団体や教育機関等との相互協力を進めながら、継続的に取り組んでいきます。

2 令和7年度の主な取組について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組み

①農業体験の推進

グリーンツーリズムに係る取組み

「そらちDEい〜ね」を介した受入事業

時期 令和7年6月30日～10月10日

受入件数 延べ3件

参加人数 計3校12人

受入農家 計3戸

たきかわエコネット

(2) 川との共生に向けた取組み

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組み

（「NPO まち・川づくりサポートセンター」から報告を受けた文書を転記しております。）

1. 環境保全・美化活動の啓発

①石狩川クリーンアップ作戦

ごみ問題は次世代への課題であり、ごみを放置することが野生生物を呼び寄せる原因になったり海へと流れ出たプラスチックごみが海洋汚染の原因となり生態系に悪影響を及ぼすことは知られている。毎年、私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい

空間にすることを目的に、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行っている。

近年は、子供連れの参加が目立っている。幼少期から環境保全活動に関わることは、将来の河川環境を考える上でも好ましいと感じている。年々、収集されるごみの量が減り不法投棄なども見られなくなり、この活動の成果を実感している。拾ったごみの回収は、毎年、滝川市くらし支援課が行ってくれている。

5月25日（日）を予定していたが、実施できないくらいの大雨で、この活動を開始して以来初めての中止となった。9団体から80名の参加申し込みがあった。

2. 自然体験活動の普及

①滝川子ども水辺協議会の活動（みんとち自然体験楽校）

平成25年から始めた「みんとち自然体験楽校」（※みんとちとは、アイヌ語でカップのこと）は、今年で13年目を迎える。市内の子ども達を対象に、石狩川や周辺の自然を活かして体験活動の面白さや河川環境保全などに気づいたり防災・減災についても関心を深めたりしてもらうことをねらいに開校している。一年を通して身近な自然の変化や季節の特徴を体験してもらうため、夏・秋・冬のコースを計画した。また、活動を通して、環境保全の大切さに気づき、仲間との協力や異年齢との人間関係を学んだり、社会性や郷土愛も育まれることも期待している。

・夏コース みんとちの冒険

開催日 令和7年8月2日（土）

参加人数 10名

内 容 Eボートによる川下り、水生生物調査、水防災の直接体験などを行った。蛸の首樋門付近をスタートし、石狩川とラウネ川の合流点のゴールを目指して力を合わせてEボートを漕いだ。支流の徳富川では川流れや魚すくいを通して、川遊びの楽しさを味わった。浸水市街地を想定した歩行体験では、川底の石は藻が生えていて滑ることやライフジャケットが命を守ることなどを体験的に学んでいた。夏コースならではの体験を通して、身近な川と災害・川の危険性、川の環境保全など楽しさと危険性の二面性についても意識を高めることができた。



・秋コース みんとちの知恵

開催日 令和7年10月11日（土）

参加人数 10名

内 容 秋の自然観察を通して、身近な自然物を利用したり道具の使い方を体験す



ることをねらいに活動した。
午前中は、秋の石狩川をボートで下り中州で水切りなどをして楽しんだり上空を飛ぶ渡り鳥を観察した。午後は、河川敷に生えているイタドリで水鉄砲遊びを楽しんだ。また、近隣の市町で熊の出没が多いことから熊の習性や成獣の大きさなどを学び、野生生物の住む環境を考えたり共存などについても子供なりに考えていた。



- ・秋コース みんとちのかくれ家
- 開催日 令和8年2月1日（土）
- 参加人数 15名
- 内 容 冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を計画した。
 イグルー制作は、雪を踏み固めてブロックを切り出し積上げる方法で行った。午後は、ボートで坂を滑ったりスノーシューで雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学んだ。



3. 滝川地区地域防災施設（川の科学館）を活用した環境・防災の普及

①流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れ方を比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で団体の年齢や学年に応じて分かりやすい説明に心がけた。また、水量が増える原因やその結果についても説明し、気候変動の影響と河川環境の変化、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにした。
(参加人数 1,163名)



②自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川である。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の流れ方の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明した。

また、北海道開拓にかかわった人々が幾度も水害に苦しんだことにも触れ石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づいてもらえるように説明した。

(参加人数 1,163 名)



③石狩川 1/1000 模型で調べよう (リバーウォーク)

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり笹舟をながしたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら確認したり水と触れ合ったりしていました。期間限定で水を循環しているが、幼児の水遊び場として徐々に人気が高まっている。笹舟流しは、大人にも子供にも人気があった。

(参加人数 1,572 名)



4. 川の直接体験を通して防災・減災考える活動 (石狩川の川下り及び水圧・水流の直接体験)

川から見る自然を体験してもらうため、Eボート (10人乗りのゴムボート) による川下りを実施した。参加者には、石狩川の川下りを通して、河川環境保全や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりしてもらうことを期待している。

参加者は、川底の太い流木や川岸の漂流物、浮遊するプラスチックゴミなどを目の当たりにし、水災害の恐ろしさや川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せていた。きれいな水かどうかの水質を判断する指標の水生生物を見つけて観察なども行っていた。

また、小学校団体を対象に防災学習として水流や水圧を体験する「浸水市街地想定歩行訓練」「川流れ」を実施しました。

(全5回開催 参加人数 計 129 名)



5. 人材の育成

安全で楽しい川の活動を行うには、安全管理が最も重要であり、いざという時に備え、ボランティアスタッフの技術講習会を行った。万一に備えた救助訓練や川下りに備えたボートの操作訓練を行った。流況が違う石狩川および空知川で講習会を行ったが、川は季節や天候、上流の状況によって変化するので繰り返し訓練を行い様々な流況に対応することが大事であることを実感した。楽しく安全に川の活動を行うためにも繰り返し訓練を行うことが必要であることを痛感している。

(全2回開催 参加人数 のべ55名)



6. 環境問題に取り組む他団体との連携

開催日 令和7年10月4日(土)

参加人数 約10名

内容 滝川市内の果樹園に熊が出没し何日間もブルーンを食べ続けていたというニュースを知り、「たきかわし環境フォーラム」と連携して、熊の習性を学び、共存について考える学習会を開催した。野生生物を呼び寄せる原因は、環境の変化だけでなく人間生活にも起因していることなどを考えさせられる学習会となった。また、クマ撃退スプレーの使い方や効果的な距離なども実践的に学んだ。



たきかわエコネット

(3) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

①フットパス及び自然観察会(7回) ※うち雨天中止1回

開催日 令和7年5月18日～令和8年3月1日

内容 江部乙丘陵地を歩いて、自然観察等を行いました。

参加人数 延べ100人

②特別企画(6回)

開催日 令和7年5月24日～令和8年3月3日

内容 ファンクラブ会員や一般参加者の要望によって企画された、体験会や満月スノーシューなどを実施しました。

参加人数 延べ45人

(4) 自然環境と動物に関する取組

「たきかわ環境フォーラム」による取組

(「たきかわ環境フォーラム」の公式HPの文書を一部転記しております。)

たきかわエコネット

「野生動物と共存する『地域のチカラ』を育もう」

内 容 野生動物に対する市民の価値観はさまざまです。市民協働の対策を講じる時に最も重要なのが、合意形成のプロセスであることはいうまでもありません。行政区界や担当部署、被害者/受益者といった垣根を越えて、参加者同士が情報を交換・共有し、自由に議論できる場を提供すべく「エコフェスタ2025」を開催します。

①たきかわエコフェスタ2025

「野生動物と共存する『地域のチカラ』を育もう」

開 催 日 令和7年12月7日

会 場 滝川まちづくりセンターみんくる

話題提供 滝川市くらし支援課

米内 健二 氏

北海道滝川高等学校

長澤 秀治 氏

tabi-bito Film

田口 友子 氏

参加人数 65人



(5) 環境美化と住民等との交流促進に関する取組

「たきかわプロギング」による取組

①たきかわプロギングの開催（7回）※うち雨天中止1回

開 催 日 令和7年4月19日～令和7年11月16日

内 容 ジョギングとごみ拾いを
掛け合わせたプロギング。
滝川市内の施設周辺や、
イベント会場を会場とし
て開催しています。

参加人数 延べ80人

たきかわエコネット



民間団体の活動のピックアップについて

「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「たきかわ環境フォーラム」、「たきかわプロギング」は、市内で活動する民間団体として、それぞれ特色ある取り組みを展開していることから、目標3『自然環境・農業（自然・農業の保全）』を積極的に推進する団体として取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット(P21 参照)にも記載されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後もピックアップしていきたいと考えていますので、「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

(4) 環境コミュニティ

1 令和 7 年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成数

目標値（平成 18 年度～令和 7 年度累計） 350 人

実績値（令和 7 年度累計） 524 人

（うち令和 7 年度 43 人）

環境市民大会における参加者数

目標値 100 名以上

実績値（令和 7 年度） 20 名

環境市民大会における参加者の平均評価点

目標値 85 点以上

実績値（令和 7 年度） 91.8 点

令和 7 年度の評価

先生役となる若い世代の高校生が、環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋げることが期待できます。

さらに、環境学習リーダーも様々な人との関わりや人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材に成長する貴重な場になっています。

令和 7 年度は、環境問題に取り組むうえで簡単にできる例を紹介することによって、環境への取り組みを身近に感じていただくことができました。今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、より多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきます。



2 令和 7 年度の主な取組等について

(1) 環境学習リーダー

次世代を担う高校生が、子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施してます。令和 7 年度は滝川高校理数科 1 年生 35 名が新たに環境学習リーダーとなりました。

日 時 令和 7 年 12 月 11 日

主 催 北海道滝川高等学校、滝川市

会 場 北海道滝川高等学校



滝川高校で開催されたサイエンスデーで小学生達に環境学習を行いました。

日 時 令和7年12月6日
主 催 北海道滝川高等学校
会 場 北海道滝川高等学校



(2)環境学習リーダーAdvance

環境学習に興味を持つ生徒が、地球温暖化の現状と自分たちの暮らしの関係を学び、市民運動『エコライフたきかわ（通称：エコたき）』で目指している「人」と「地球環境」にやさしい行動ができる人材育成並びに市民間における環境問題への意識向上を目的とします。

日 時 令和8年3月27日
主 催 北海道滝川高等学校、滝川市
会 場 東地区児童センター
内 容 環境に興味を持つ高校生8名が昨年度の環境学習リーダーAdvanceメンバーより手法を引継ぎ、新たな環境学習リーダーAdvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。

今年度は、「おなかがすいた！」というプログラムを用いて、海洋環境を汚染しているプラスチックごみが海鳥に与えている影響とクマ視点の内容の絵本を読み聞かせることで、クマが人間の住んでいる地域に足を踏み入れる理由を小学生に知ってもらいました。また、実際のクマの頭蓋骨や毛皮から、クマの生態や大きさ、クマに出会った際の対処方法などを学びました。



(3)環境市民大会

主 催 滝川市
開 催 日 令和8年2月13日
会 場 まちづくりセンターみんくる
人 数 20名
演 題 「無理なくできる省エネを再点検！おうちで省エネ」
講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員 宮森 芳子 氏
内 容 今年度は、環境問題に取り組むために何をすれば良いか分からないといった声にお答えするために、日々の生活の中で簡単にできる省エネ・新エネについて講演を行いました。
講演では、「実践！おうちで省エネ」という冊子を用いて、配布した付箋を貼りながら日常生活の中で実践できる省エネについて学びました。実際に製品を使用しながら説明が行われ、参加者からは、多くの質疑応答が飛び交うなど、関心の高い内容となりました。



(4)環境教育講座

主 催 開西中学校
開 催 日 令和8年2月24日
場 所 滝川市立開西中学校 体育館
参加人数 3年生 56名
内 容 NP0 法人八剣山エコケータリング代表フルスト・ビルギット・ビアンカ氏を講師としてお招きして、3年生の環境学習を行いました。ドイツの特徴であるもったいない精神に基づき、ものを大切にする心を養いながら環境保全を考えていくことを学びました。

(5)市内保育所と連携したエコドライブ啓発展示

主 催 滝川市
展示期間 令和7年5月23日～6月25日
会 場 滝川市立図書館
内 容 滝川市内保育所園児による「エコドライブ」のぬり絵展示を行いました。



(6)そらちゼロカーボンリレーパネル展

主 催 北海道空知総合振興局、滝川市
展示期間 令和7年5月23日～6月25日
会 場 滝川市立図書館
内 容 ゼロカーボン北海道への理解を
深めていただくための普及啓発
用のパネルの展示を行いました。



エコたつくん

エコたきくん

エコ美ちゃん

エコほん

たきかわエコネット登録団体：6団体(令和8年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
まち・川づくりサポートセンター	 石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援（レスキュー訓練、舟漕ぎ大会）、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成（RAC、CONE、プロジェクトWET・ワイルド・ラーニングツリーなど）	たきかわ環境フォーラム	 市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ！」。 私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。
江部乙丘陵地のファンクラブ		日本野鳥の会滝川支部	
	江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。		滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動が続けています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。 また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。
滝川消費者協会	本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指するため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。	たきかわプロギング	 プロギングとは、ジョギングとごみ拾いを掛け合わせた新しいフィットネスです。仲間とコミュニケーションを取りながら宝探しのような感覚で活動します。気持ちよく体を動かし楽しくプロギングしたその先で気付けばマチがきれいになっている！ ポジティブな力で足下から世界を変える～身近な所からプロギングしてみませんか。
			

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21 世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成 15 年 1 月 1 日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(令和7年度版)

令和8年 月 日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.lg.jp